

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画

科 目 名	単位数	時 間	開講時期	担 当 講 師		
看護学概論Ⅱ	1	30	2年生 前期・後期	小林 明美（専任教員：看護師）		
科目のねらい	<p>看護の対象である患者にとって「より良い看護とは」を追究するために、看護実践で体験するジレンマに含まれる倫理的課題や問題を見出し、解決に向かうための倫理的行動の基準、倫理原則などを学ぶ。また、倫理的感受性を高めることで、専門職業人としての看護倫理観を高めていく。</p> <p>看護実践をより確かなものとするために、看護実践から生まれた知識体系である先人の看護理論を学び、自己の看護実践と結びつけることで「看護とは何か」を問い、自己の看護観を発展させる機会とする。</p>					
目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護専門職として果たすべき責務を理解し、倫理的行動の基準、倫理原則などの看護倫理を理解する。</li> <li>2 看護実践での倫理的課題や問題について、倫理的行動の基準、看護原則をもとに解決策を考えられる。</li> <li>3 看護理論の概要を理解する。</li> <li>4 看護理論(看護論)の学習をとおして、看護実践における理論の重要性や意味を理解する。</li> </ol>					
単 元 名	教 育 内 容			時間数	方 法	担当講師
1 看護倫理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護職者の倫理                             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 倫理を学ぶ意義</li> <li>(2) 職業倫理としての看護倫理</li> <li>(3) 看護倫理と患者の権利擁護</li> </ol> </li> <li>2 倫理的ジレンマと解決方法                             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 倫理的ジレンマの解決プロセス</li> <li>(2) 意思決定のための事例検討</li> </ol> </li> </ol>			10	講義 演習	小林
2 看護理論の理解	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護理論(看護論)の理解                             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 看護理論とは</li> <li>(2) 看護理論(看護論)の発展過程</li> <li>(3) 看護理論の分類と各理論の特徴                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境理論</li> <li>・ニード理論</li> <li>・相互作用理論</li> <li>・システム理論</li> <li>・ケアリング</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol>			6	講義	小林
3 看護理論演	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護理論家と看護の考え方 (看護の目的、対象、方法)</li> <li>2 看護実践への応用の仕方 ※理論を活用し実習の振り返りをする</li> </ol>			13	講義 演習	小林
評 価 方 法	筆記試験(60点)、レポート(40点:理論の個人ワーク)/計100点					
使 用 テ キ ス ト	<p>NICE看護学テキスト「看護理論」南江堂                      NICE看護学テキスト「看護倫理」南江堂                      《参考文献》                      系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学[1]「看護学概論」医学書院                      F. ナイチンゲール:看護覚え書き 第7版、現代社、2017                      V. ヘンダーソン:看護の基本となるもの 再新装版、日本看護協会出版会、2016                      ロイ適応看護理論の理解と実践 医学書院                      看護実践に活かす中範囲理論 メヂカルフレンド社                      よくわかる看護者の倫理綱領 照林社</p>					

## 添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画

科目名	単位数	時間	開講時期	担当講師		
診療補助技術	1	30	2年生前期	三浦 環（専任教員:看護師）		
科目のねらい	治療・処置を受ける患者の不安や苦痛への援助の必要性和、安全・安楽に診療補助技術を実践するために必要な知識と技術を習得する。					
目 標	1 吸入に関する技術の生体への影響とその方法について習得する。 2 与薬の援助の意義と方法を理解する。 3 安全・安楽な与薬の援助方法を習得する。 4 与薬を受ける患者の心理を理解する。 5 輸血の意義と輸血時の看護を理解する。					
単 元 名	教 育 内 容			時間数	方 法	担当講師
1 吸入	1 吸入の原理と目的 2 吸入の生体への影響 3 吸入の種類と方法 (1)薬液吸入 (2)酸素吸入			2	講義 演習	三浦
2 与薬	1 薬物療法 (1)薬物療法の意義 (2)与薬までの医療者の役割 (3)看護師の役割 2 与薬の管理と方法 (1)薬物の管理 (2)与薬の方法 3 経口与薬の援助 4 非経口与薬の援助 (1)口腔内与薬法 (2)直腸内与薬法 (3)単純塗擦法 (4)点眼法 5 注射による与薬法 (1)注射とは (2)注射の種類と適応 (3)注射の合併症 (4)注射の実際 (5)中心静脈注射 中心静脈栄養 (6)輸液の管理 6 点滴の準備と介助の実際 7 点滴の管理			17	講義 演習	三浦
3 検査	1 検査時の看護 (1)検査の意義、種類、採取法 (2)検査における看護者の役割 (3)検査を受ける患者の心理 2 採血 (1)種類と目的 (2)使用器具の準備 (3)実施方法と留意事項			8	講義 演習	三浦
4 包帯法	1 包帯法 (1)目的と種類 (2)包帯法の原則と留意点 (3)巻軸帯による包帯法			2	講義 演習	三浦
評 価 方 法	筆記試験85点: (「吸入」「与薬」「採血」:65点、「検査時の看護」「包帯法」:20点) 演習点15点(注射・採血)/(100点)					
使 用 テ キ ス ト	系統看護学講座「基礎看護学Ⅱ」医学書院 「看護技術がみえる①基礎看護技術」メディックメディア 「看護技術がみえる②基礎看護技術」メディックメディア					

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画

科 目 名	単位数	時 間	開講時期	担 当 講 師		
成人看護学援助論Ⅰ	1	30	2年生前期	片山 陽子（専任教員：看護師） 三浦 環（専任教員：看護師） 佐々木 さくら（市立旭川病院：看護師）		
科目のねらい	慢性疾患をもちながら生活する対象の理解と生活調整し適応促進するための看護を学ぶ。					
目 標	1 慢性疾患をもつ対象を理解する。 2 生活調整のための看護を理解する。 3 糖代謝障害のある対象に必要な生活調整、悪化予防のための援助方法を理解する。 4 肝機能に不可逆性の障害を持つ対象に必要な生活調整、悪化防止のための援助方法を理解する。 5 生活調整が必要な成人期の対象の看護過程の展開がわかる。					
単 元 名	教 育 内 容			時間数	方 法	担当講師
1 生活調整し適応促進するための看護	1 慢性疾患を有する対象の理解 (1) 慢性疾患と治療の特徴 (2) 患者、家族の特徴 (3) 慢性疾患を有する対象をとりまく療養環境の特徴 (4) チーム医療			4	講義	片山
2 慢性疾患をもつ対象への看護	1 糖代謝機能障害を有する対象の看護 【糖尿病患者の看護】 (1) 病気の経過と治療・検査に伴う看護 ①食事療法 ②運動療法 ③薬物療法 (2) 身体的・心理的・社会的特徴 (3) 患者、家族への援助 ①症状マネジメント ②セルフモニタリング ③心理・社会的支援 (4) 退院支援 ①療養生活に必要な知識と技術 ②SMBG(血糖自己測定)の実際  2 肝機能障害をもつ対象への看護 【肝炎・肝硬変・肝がん患者の看護】 (1) 病気の進行と治療・検査に伴う看護 ①安静療法 ②食事療法 ③薬物療法 ④肝がんの治療 ⑤その他 (2) 身体的・心理的・社会的特徴 (3) 患者、家族への援助 ①症状マネジメント ②セルフモニタリング ③心理・社会的支援			7	講義 演習	三浦
3 生活調整し適応促進するために必要な看護技術	1 看護過程の展開 ・糖尿病患者の看護過程の展開を行い、療養生活に必要な指導を行う			6	講義	佐々木
評 価 方 法	授業中の取組み姿勢及びレポート、筆記試験 学院講師担当分：筆記試験60点(単元1:25点、単元2-1:35点) 看護過程20点 外部講師担当分：20点					
使 用 テ キ ス ト	共通：N・ICE 成人看護学 慢性期看護 南江堂 単元2-1：系統看護学講座 専門10『成人看護学6 内分泌・代謝』医学書院 糖尿病食事療法のための食品交換表 日本糖尿病学会編 文光堂 単元2-2：系統看護学講座 専門9『成人看護学5 消化器』医学書院 単元3：「看護過程に沿った対症看護」学研 ：「疾患別看護過程の展開」学研					

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画

科 目 名	単位数	時 間	開講時期	担 当 講 師		
老年看護学援助論Ⅰ	1	30	2年生 前期・後期	水野 弥美（専任教員：看護師） 澤田 成子（非常勤講師：看護師） 高橋 あゆみ（旭川医療センター：看護師） 荒木関 千恵（非常勤講師：看護師）		
科目のねらい	1 高齢者の生活機能のアセスメントの視点について理解できる。 2 高齢者の健康障害とそれに応じた看護について理解できる。 3 人生の終焉を迎える高齢者とその家族への看護について理解できる。					
目 標	1 高齢者の生活機能のアセスメントの指標が理解できる。 2 老年期の健康障害の特徴や日常生活への影響を踏まえた援助方法を理解する。 3 高齢者や家族にとっての死について理解でき、看護を考えられる。					
単 元 名	教 育 内 容			時間数	方 法	担当講師
1 高齢者の生活機能	1 高齢者の生活機能のアセスメントの指標と考え方 (1)ICF生活機能評価 (2)高齢者総合機能評価(CGA) (3)基本的日常生活動作(BADL) (4)手段的日常生活動作(IADL) (5)精神機能評価			4	講義	水野
2 高齢者の健康障害と看護	1 老年期にみられる主な疾病や症状と治療、看護 (1)脳神経系の障害をもつ高齢者の看護 ・パーキンソン病			4	講義	高橋
	(2)ADL障害をもつ高齢者の看護 ・寝たきり予防の看護 ・寝たきりの高齢者の看護 (3)認知症高齢者の看護 (4)骨・関節系疾患をもつ高齢者の看護 ・骨粗鬆症 ・四肢の痛み (5)検査を受ける高齢者の看護 (6)薬物療法を受ける高齢者の看護 (7)手術療法を受ける高齢者の看護			8	講義	荒木関
3 死を迎える高齢者の看護	1 高齢者と死 2 高齢者の死と家族 3 尊厳ある看取り			10	講義	水野
3 死を迎える高齢者の看護				3	講義	澤田
評 価 方 法	筆記試験 100点(外部講師15点、外部講師30点、学院講師55点)					
使 用 テ キ ス ト	系統看護学講座 専門Ⅱ「老年看護学」 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ「老年看護 病態・疾病論」 医学書院 厚生労働統計協会：国民衛生の動向 2021/2022					

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画

科 目 名	単位数	時 間	開講時期	担 当 講 師		
老年看護学援助論Ⅱ	1	15	2年生 前期	水野 弥美 (専任教員:看護師) 澤田 成子(非常勤講師:看護師)		
科目のねらい	高齢者の加齢に伴う日常生活機能の低下と基本的な生活援助について理解できる。					
目 標	加齢に伴う生活機能の低下をアセスメントし、自主性を尊重した生活援助について理解できる。					
単 元 名	教 育 内 容			時間数	方 法	担当講師
1 高齢者の生活機能 低下と基本的生活 の援助	1 食事 (1)老年期の栄養 (2)摂食・嚥下機能の変化 (3)食生活への援助 (4)脱水の予防			10	講義 演習	水野
	2 排泄 (1)排泄機能の変化 (2)尿失禁の種類 (3)排泄の援助					
	3 活動と休息 (1)睡眠の特徴と生活への影響 (2)睡眠の援助 (3)活動の意義 (4)運動機能の変化と生活への影響 (5)活動の拡大に向けての援助			4	講義	澤田
	4 清潔と衣生活 (1)皮膚の特徴 (2)清潔の意義 (3)清潔の援助 (4)衣生活の意義と援助					
	5 コミュニケーション (1)高齢者のコミュニケーションの特徴 (2)コミュニケーションの援助					
	6 性 (1)性機能の変化と援助					
評 価 方 法	筆記試験 100点(学院講師70点、非常勤講師30点)					
使 用 テ キ ス ト	系統看護学講座 専門Ⅱ「老年看護学」医学書院 統計看護学講座 専門Ⅱ「老年看護 病態・疾病論」医学書院 「根拠と事故防止からみた老年看護技術」医学書院					

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画

科目名	単位数	時間	開講時期	担当講師		
母性看護学援助論Ⅰ	1	15	2年生 後期	高橋 由香利(専任教員:助産師)		
科目のねらい	女性のライフサイクル各期の特徴と起こりやすい健康問題について理解し、母性の発達を促すための看護を学ぶ。					
目 標	1 健全な母性の発達と健康教育について理解する。 2 健全な母性のための健康教育と健康逸脱時の看護を理解する。 3 心身の変化を理解し、健康に過ごすための看護を学ぶ。					
単 元 名	教 育 内 容			時間数	方 法	担当講師
1 思春期の保健	1 身体・心理・社会的特徴 (1)二次性徴 (2)性意識・性行動の発達 2 健康教育:月経教育、性教育 3 健康上の問題と保健指導 (月経異常、性感染症、若年妊娠、人工妊娠中絶)			6	講義	高橋
2 成熟期の保健	1 身体・心理・社会的特徴 (1)性機能の充実 (2)周婚期、子育て期、就労 2 健康教育:家族計画と受胎調節 3 健康上の課題と看護 (不妊症と生殖補助医療、出生前診断、女性生殖器疾患)			4	講義	高橋
3 更年期・老年期の保健	1 身体・心理・社会的特徴 (1)閉経、卵巣機能の減退 (2)アイデンティティーの再体系化、母性性の充実 2 健康上の課題と看護 更年期障害、老人性膣炎・外陰炎			4	講義	高橋
評 価 方 法	授業への参加状況及び筆記試験(小テストを含み100点)					
使 用 テ キ ス ト	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[1]「母性看護学概論」医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[2]「母性看護学各論」医学書院					

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画

科 目 名	単位数	時 間	開講時期	担 当 講 師		
小児看護学援助論Ⅱ	2	45	2年生 後期	上村 馨子（専任教員：看護師） 中右 弘一（旭川医科大学病院小児科学講座助教：医師） 鳥海 尚久（旭川医科大学病院小児科学講座助教：医師） 田中 亮介（旭川医科大学病院小児科学講座助教：医師） 吉田 陽一郎（旭川医科大学病院小児科学講座助教：医師） 佐藤 雅之（旭川医科大学病院小児科学講座助教：医師）		
科目のねらい	小児の健康が小児及び家族に及ぼす影響をとらえ、様々な状況にある小児と家族への看護を理解する。					
目 標	1 小児期に見られる主な疾患の病態生理・検査・治療を理解する。 2 病気や診療・入院が小児と家族に与える影響と看護を理解する。 3 検査や処置を受ける小児と家族への看護を理解する。 4 救急処置の基礎的な知識と技術を理解する。 5 手術療法を受ける小児と家族の看護を理解する。 6 急性期に起こる主な症状と危機状態の小児と家族の看護を理解する。 7 慢性期にある小児と家族の看護を理解する。 8 終末期にある小児と家族の看護を理解する。 9 白血病の患児と家族への看護の展開を理解する。					
単 元 名	教 育 内 容			時間数	方 法	担当講師
1 小児の特徴的な疾患	1 小児期に特有な疾患 (1)循環器疾患(先天性心疾患) (2)消化器疾患(幽門狭窄症、ヒルシュスプルング病、腸重積、乳児下痢症) (3)腎泌尿器疾患(ネフローゼ症候群、腎炎) (4)神経性疾患(てんかん、熱性けいれん、髄膜炎、脳性麻痺、筋ジストロフィ) (5)血液疾患(白血病)			10	講義	中右 鳥海 田中 吉田 佐藤
2 状況別の小児の看護	1 病気に対する子どもの理解と説明 (1)病気に対する子どもの理解の特徴 (2)子どもの理解に関する要因 (3)発達に応じた病気の説明 (4)インフォームド・アセント 2 プレパレーション (1)子どもへの説明と同意 (2)家族の準備状態の把握 (3)検査・処置を受ける子どもと家族への支援 3 病気や診療・入院が子どもに与える影響と看護 (1)成長・発達に及ぼす影響 (2)病気や診療・入院に伴うストレスと影響要因 (3)子どもの反応とストレス対処行動 4 子どもの病気や診療・入院がきょうだい・家族に及ぼす影響と看護 (1)子どもの病気や診療・入院に伴うきょうだい・家族のストレス (2)きょうだい・家族のストレスの支援 5 外来における子どもと家族への援助 (1)外来における緊急度の把握・トリアージ(災害を含む) (2)外来における感染症対策 (3)受診時の子どもと家族の緊張と不安の軽減 (4)家族の面会や付き添いにおける援助			4	講義	上村
	1 検査や処置を受ける小児の看護 (1)年齢に応じた説明 (2)検査・処置前・中・後の観察と看護 (3)基本的な小児看護技術 ①バイタルサイン測定 ②身体計測 ③採血 ④採尿 ⑤与薬			4	講義 DVD視 聴	上村





添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画

科目名	単位数	時間	開講時期	担当講師		
在宅看護援助論 I	1	30	2年生後期	藤木 みさお（専任教員:看護師）		
科目のねらい	在宅療養者とその家族のQOLの維持向上に向けて、在宅看護を展開するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける。					
目 標	1 在宅における面接・教育的支援の基本的な技術・姿勢について学ぶ。 2 在宅看護に必要な生活援助技術の知識・技術を理解する。 3 在宅医療に必要な医療処置に伴う技術の知識・技術を理解する。					
単 元 名	教 育 内 容			時間数	方 法	担当講師
1 在宅での面接・教育的支援の基本技術	1 訪問時の基本的態度と面接技術 (1) 訪問時の基本的態度 (2) 訪問時の面接目的と活用技術 2 健康教育の基礎と技法 (1) 健康教育とは (2) 健康教育の目的と行動変容			4	講義 演習	藤木
2 在宅における生活援助技術	1 豊かな食生活を支える 2 快適な排泄を整える 3 身体の清潔と皮膚トラブルを予防する 4 身体運動機能の低下を予防する 5 在宅において感染を予防する			14	講義	藤木
3 在宅における医療処置に伴う技術	1 在宅酸素療法(HOT) 2 在宅人工呼吸療法(HMV) (1)NPPV (2)TPPV 3 経管栄養法(経鼻、胃ろう)			6	講義	藤木
評 価 方 法	筆記試験(80点) 演習(20点)					
使 用 テ キ ス ト	ナーシング・グラフィカ 地域医療を支えるケア 在宅看護論 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域医療を支える技術 在宅看護論 メディカ出版					